

隠れ水

高島清子

此処が沢であった証拠には
いつも水の匂いがした

水底にも夏のそよぎ

タガメのキチン質

イモリの緋色の脇腹

水に棲む者の為に

地底の水脈から

水は自分の場所を主張して昇って来る

みずさわ おさりざわ あじがさわ

涼やかな地名である

面妖な季節の通り道にも寄り添う水が

ゆっくりと目盛りを下る

分けても私は高野理化のメスシリンダーを

厳かに下る水の清烈さが嬉しかった

いちのさわ にのさわ さんのさわ

沢にすんでいるのねあなた

あの時君が密かに笑いを隠したのを見逃す筈もなく

夜気が深まると水が匂ったが

騙し絵の地形に立つ私の足裏に遠く水がある

そう思うだけで命が騒めいた

水はいつも還ろうとしていたから

挨拶の言葉が乾くのである

高野理化は神田にある理化実験用の器材屋である